

2008年(平成20年)5月30日(金曜日)

論 諸 論

原田 敬美

前東京都港区長、建築家、工学博士

パリで気候変動に関する国際会議が4月中旬開催された。その直前の4月16日、ブッシュ大統領が気候変動に関する環境政策について演説をした。スピーチ原稿の原文を読んだ。原文と日本の報道の違いを感じた。約3000ワード。原文は平易でわかりやすい。文書構造は明快、簡素。具体的な手法を述べる節では、The wrong way(間違った方法)、The right way(適切な方法)……と対比しな

ながら繰り返し述べている。ポイントには「アメリカは2025年までに温室効果ガス排出量の増加を止める」「そのために新たな技術を開発する」。そして「合理的、調和を図りながら環境を守り、エネルギーの安全保障を強化しなければならない。目標達成のために技術分野の継続的な進歩が唯一の道」「2012年までに18%温室効果ガスを減すると2002年に発表した目標に向かいながら17%の経

済成長を続けた」と過去7年のブッシュ政権の環境政策を総括。新たな国家目標として「次の段階として2025年までに温室効果ガス排出の伸びを止める」と宣言。そのため「照明や家電製品の省エネ化、自治体に対し省エネ化の建築条例強化への支援(建築基準法国ではなく各自治体が制定する)」。新たな省エネ技術開発の奨励、減税で

後トヨタなどが続き、環境に良い日本車はアメリカ自動車市場を席巻した。アメリカの厳しい環境規制が日本の自動車産業を育てた。今後も日本の環境技術がアメリカや他の国で活用されることを期待したい。

私は20歳の時アメリカ、オハイオ州のウースター大学に留学した。5大湖の二つエリー湖に面する冬の厳しい所

ブッシュ大統領の気候変動に関する環境政策

参考となる。

住宅戸数増、緑化推進。

これからの都市計画は地球規模の環境政策

新しい技術を活用。中国、インドの新興産業発展国の排出権との調和も必要。課税などの悪法は経済にマイナス効果を与える」と発表した。

だ。友人は真冬でも教室や学生寮でシャツで過ごしていた。25歳の時テキサス州ヒューストンのライス大学大学院に留学した。逆に高温多湿だ。何処でも室内は24時間冷房。脂肪分の無い私は上着を着て過ごした。アメリカは豊かだがエネルギー浪費国と感じた。

「Green」。昔の辞書でグリーンは緑。今の辞書にはグリーンは環境に良いという意味も加わった。①アトランタ市が都心居住の促進、通勤鉄道の整備と軌道敷周りに緑地帯の設置②シカゴ市は市庁舎屋上を緑化、補助金で市内の屋上緑化を促進③ポートランド市は公共交通(市電とバスの連携)整備と職住近接化④シアトル市は中心部の高密度化を図り、高度制限の緩和で

い合いなら大歓迎。